

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和元年7月発行 113-2

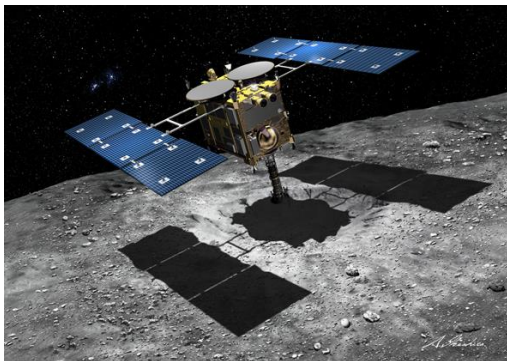
発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

はやぶさ2、タッチダウンに成功

娘のお手玉がヒントになったマーカー



小惑星探査機はやぶさ2は、7月11日午前11時50分、小惑星リュウグウへの2度目のタッチダウンに成功したと、JAXAが伝えました。人工クレーターから露出した地中物質のサンプル採取に成功が期待されています。採取されたサンプルを地球に持ち帰るのは、2020年の末になる予定です。

はやぶさ2の使命について、読売新聞のオンライン

ニュースは、次のように紹介しています。(写真上：はやぶさ2：JAXAのホームページから)

娘のお手玉に「これだ」…はやぶさ着地印開発

探査機はやぶさ2を目標の人工クレーター付近へと導く役目は、小惑星リュウグウに5月に投下された直径10センチの球状の着地目印「ターゲットマーカー」が担った。開発に携わったNEC航空宇宙システム（東京都府中市）に小笠原雅弘さん(64)は11日、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の施設（相模原市）で、着地成功を見届け、「大役を無事に果たしてくれた」と喜びを語った。



初代はやぶさが目指した小惑星イトカワの

着地に向け開発が始まったのは1997年。目印を狙い通りに置けるよう、落としても跳ねない性能が求められた。「チームの誰も開発経験がない性能で、途方に暮れた」と小笠原さん。低反発のウレタン素材などを検討したが、宇宙環境に耐えられる素材は乏しかった。

そんな時、娘のおもちゃ箱に入っていたお手玉を偶然見つけた。放り上げたお手玉は、跳ねずに手のひらにすっと収まった。「これだ」。落下時の衝撃をうまく吸収するお手玉の仕組みをヒントにすることで一気に開発が進んだ。目印の中には、特殊なプラスチックのビーズを詰めた。開発から約3年、世界で唯一の着地用目印が完成。2005年に初代はやぶさの着地を支え、11日には、はやぶさ2の再着地を成功に導いた。(写真右：ターゲットマーカーの複製品(右)と開発のヒントになったお手玉)